

RESASを用いた鎌倉市の分析

2024年3月4日
鎌倉商工会議所

テーマ

1. 人口
2. 産業構造
3. 小売業・卸売業
4. 製造業
5. 地域経済循環
6. まちづくり・観光

1.人口

年齢別人口推移

2020年の人口は総人口172,710人。
10年前（2010年）の174,314人と
比較して僅かに減少している。

今後も人口の減少に伴って
総人口は減少傾向となる見込みである。

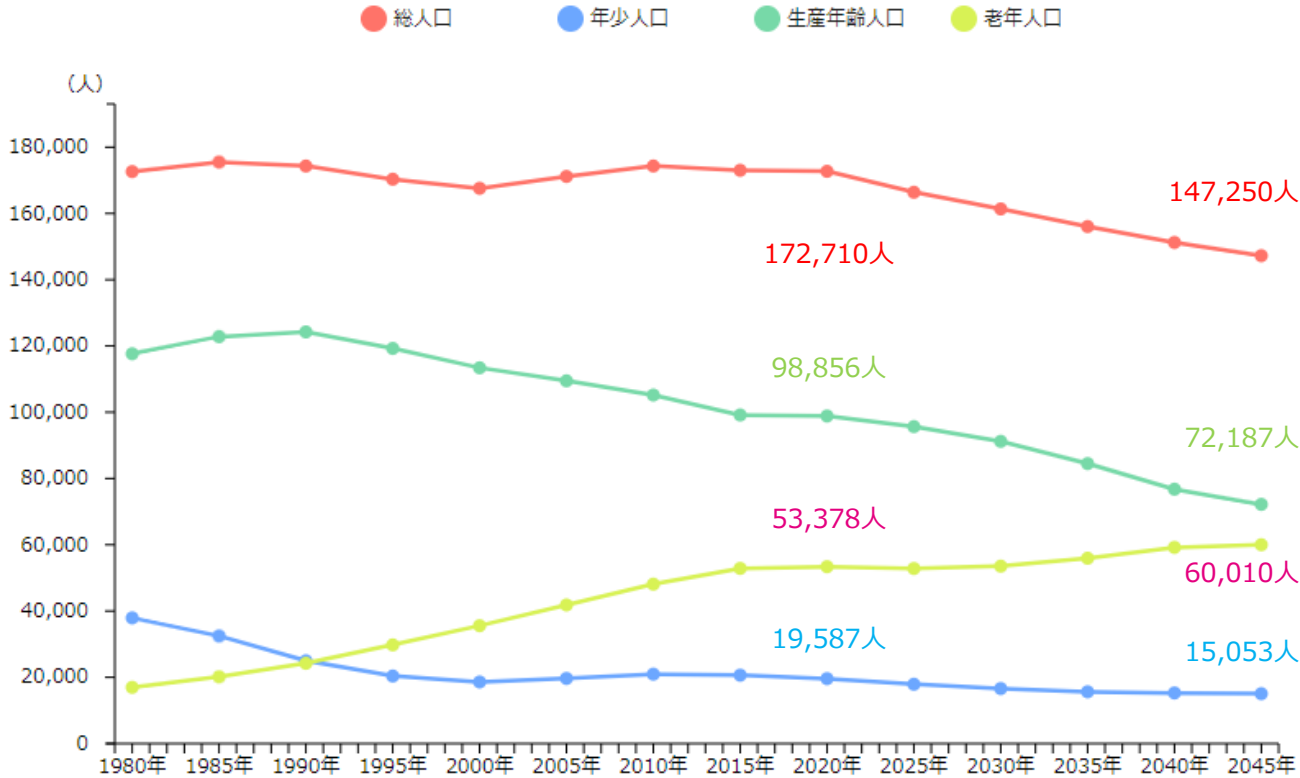
年代別 に近年の傾向をみると、

①年少人口は2000年までは減少を続けて
いたが以降は横ばいとなっている。

②生産年齢人口は 1990 年以降 減少傾向。

③老年人口は2045年に総人口の約4割。

総人口に占める老年人口の割合が高くなる
ことが予想される。



年少人口 …15 歳未満の人口
生産年齢人口…15 歳以上 65 歳未満の人口
老年人口 …65 歳以上の人口

1.人口

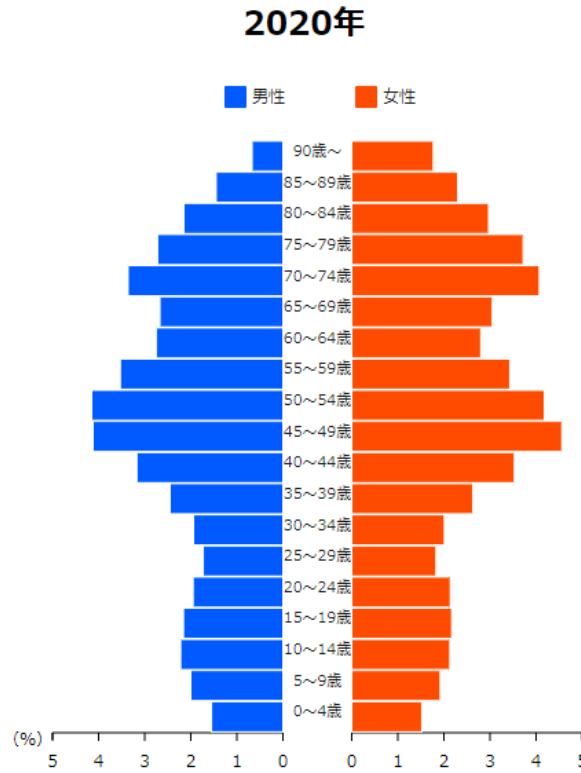
人口ピラミッド

現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。

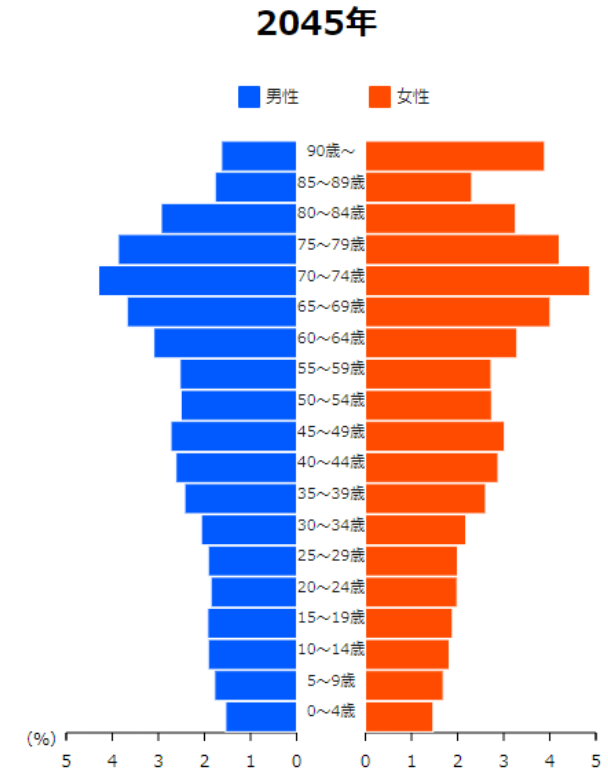
2020年は「逆ひょうたん型」、
2045年は「逆ピラミッド型」に近い。

老年人口の割合をみると、
2020年の30%から2045年には40%まで
増加する。

一方、生産年齢人口は2015年の57%から
2045年には49%まで減少する見込みである。



老年人口 (65歳以上) : 53,378人 (30.91%)
生産年齢人口 (15歳～64歳) : 98,856人 (57.24%)
年少人口 (0歳～14歳) : 19,587人 (11.34%)



老年人口 (65歳以上) : 60,010人 (40.75%)
生産年齢人口 (15歳～64歳) : 72,187人 (49.02%)
年少人口 (0歳～14歳) : 15,053人 (10.22%)

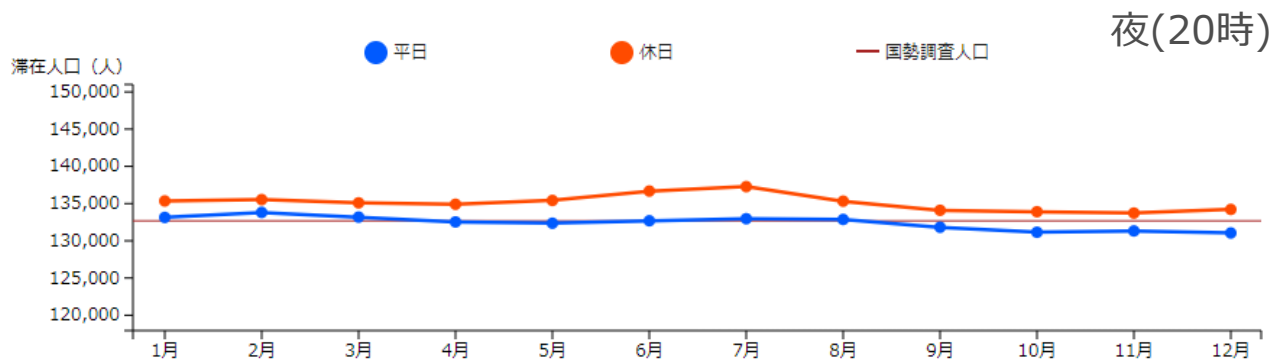
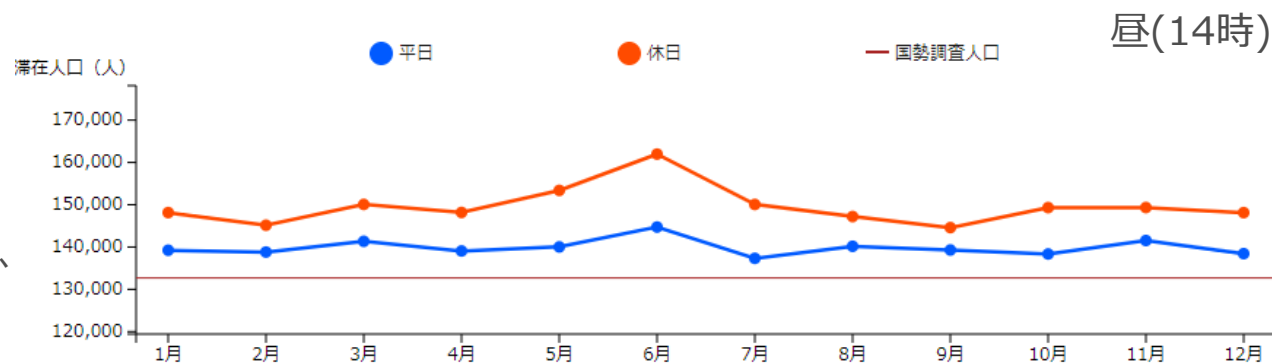
1.人口

滞在人口

鎌倉市に滞在している人の数を月ごとに示したグラフである。

平日の夜間人口よりも昼間人口の方が多く、日中は鎌倉に来る観光客が多いことが推測される。

※昼間は14時、夜間は20時のデータを掲載している



2.産業構造

事業所数（事業所単位） 大分類

業種ごとの事業所数を面の大きさ
で示したグラフである。

もっとも多いのは「卸売業、小売業」で
2,022事業所(全体の27.9%)。

その後、「宿泊業、飲食サービス業」の
1,292事業所、「不動産業、物品賃貸業」
の712事業所が続く。

事業所数(事業所単位) : 7,226事業所



2.産業構造

事業所数の推移

事業所数の推移をみる。

2016年の事業所数は7,226事業所。

7年前の2009年と比較すると

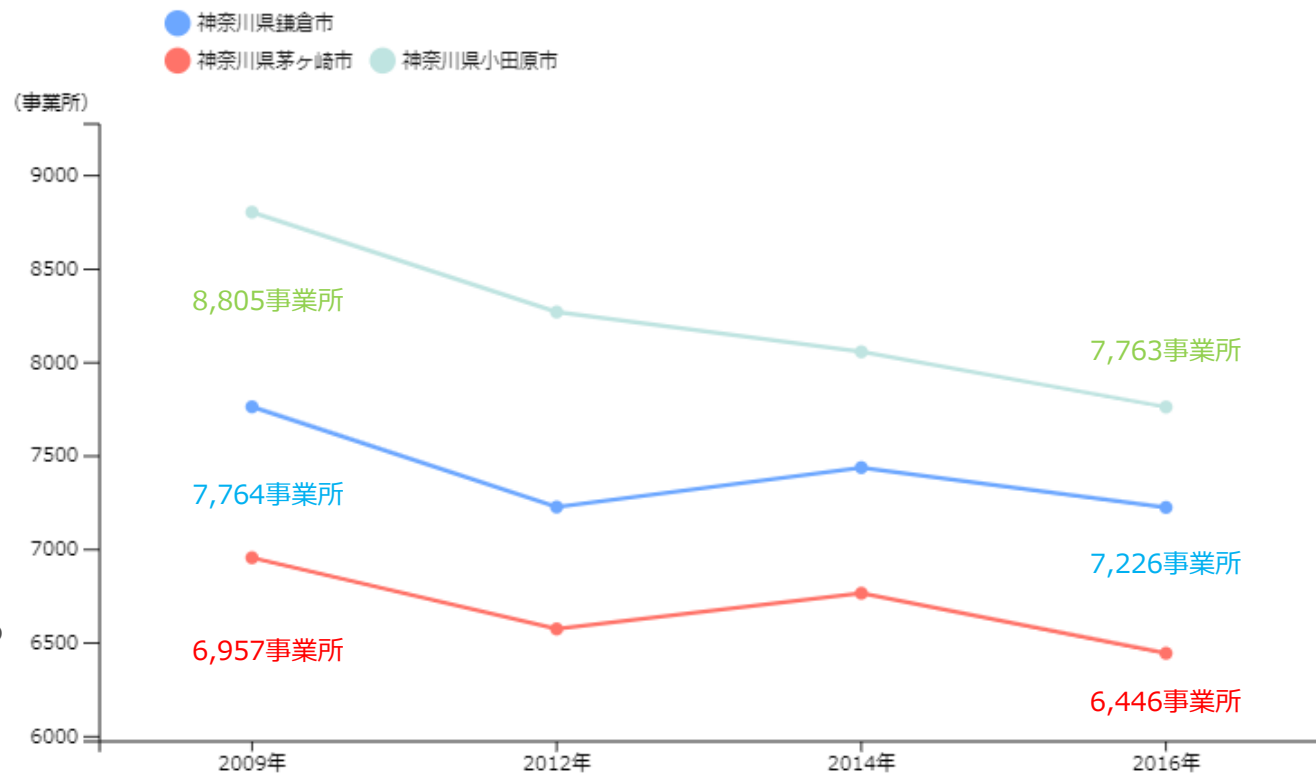
6.9%減である。

他地域をみると、小田原市は11.8%減、

茅ヶ崎市は7.3%減となっており、

いずれの地域も近い割合で減少している

ことが分かる。

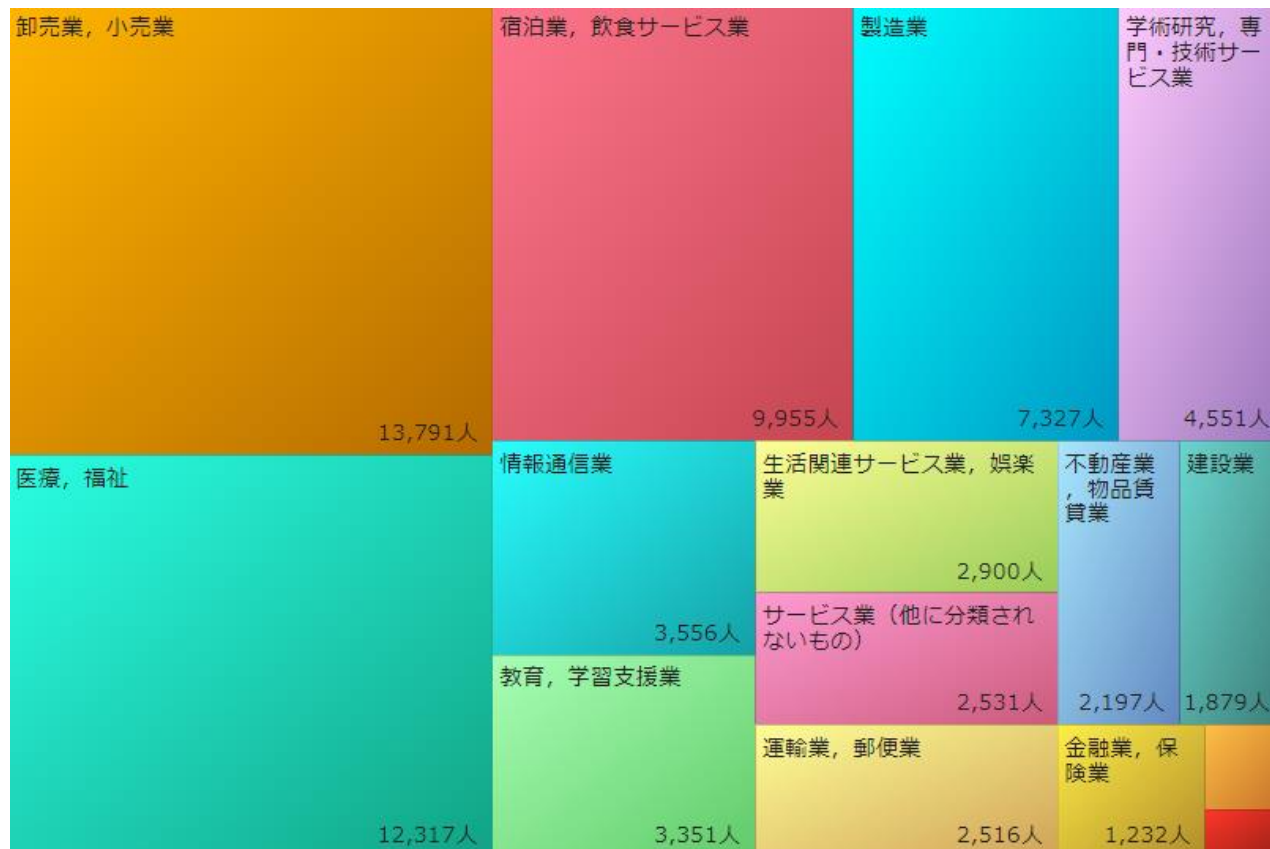


2.産業構造

従業者数（2016年）

業種ごとの従業者数を面の大きさで示したグラフである。
もっとも多いのは「卸売業、小売業」で13,791人(全体の20.0%)。
その後、「医療、福祉」の12,317人、「宿泊業、飲食サービス業」の9,955人が続く。

従業者数(事業所単位) : 68,800人



2.産業構造

従業者数の推移

従業者数の推移をみる。

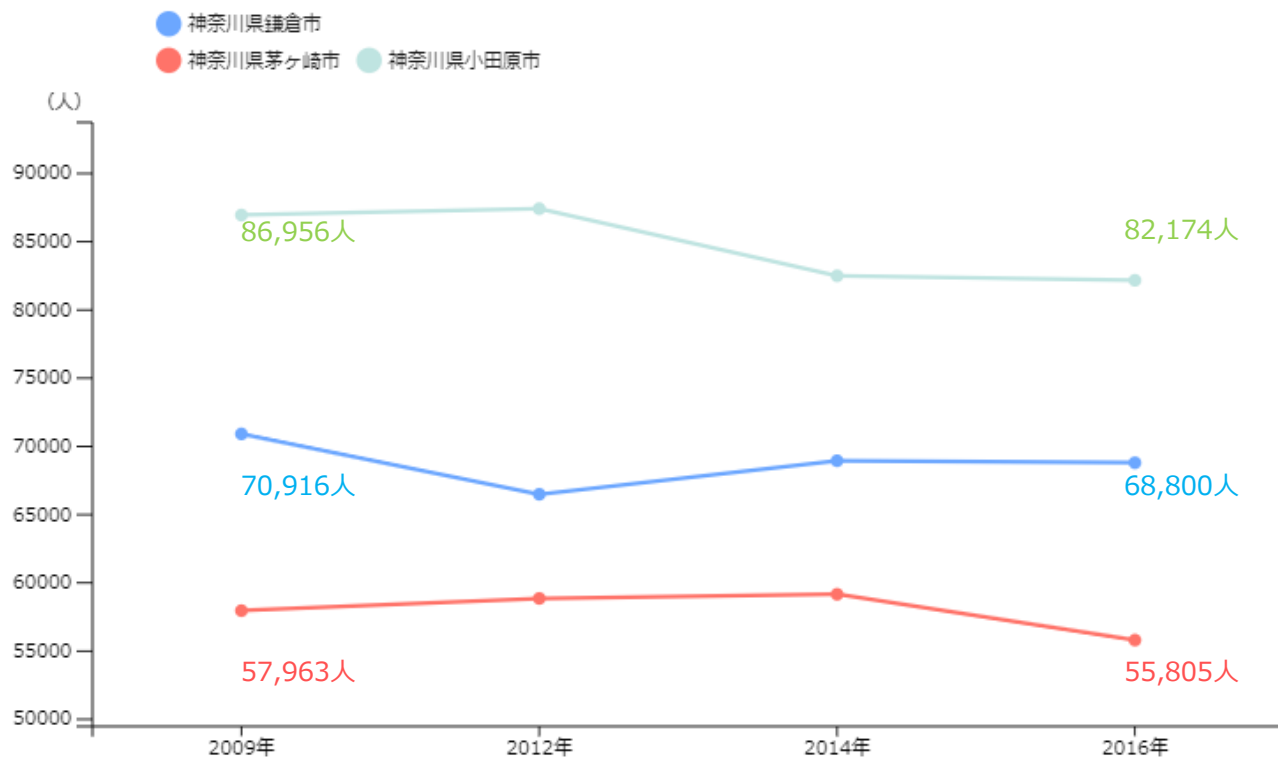
2016年の従業者数は68,800人。

7年前の2009年と比較すると

3.0%減である。

他地域をみると、小田原市は5.5%減、

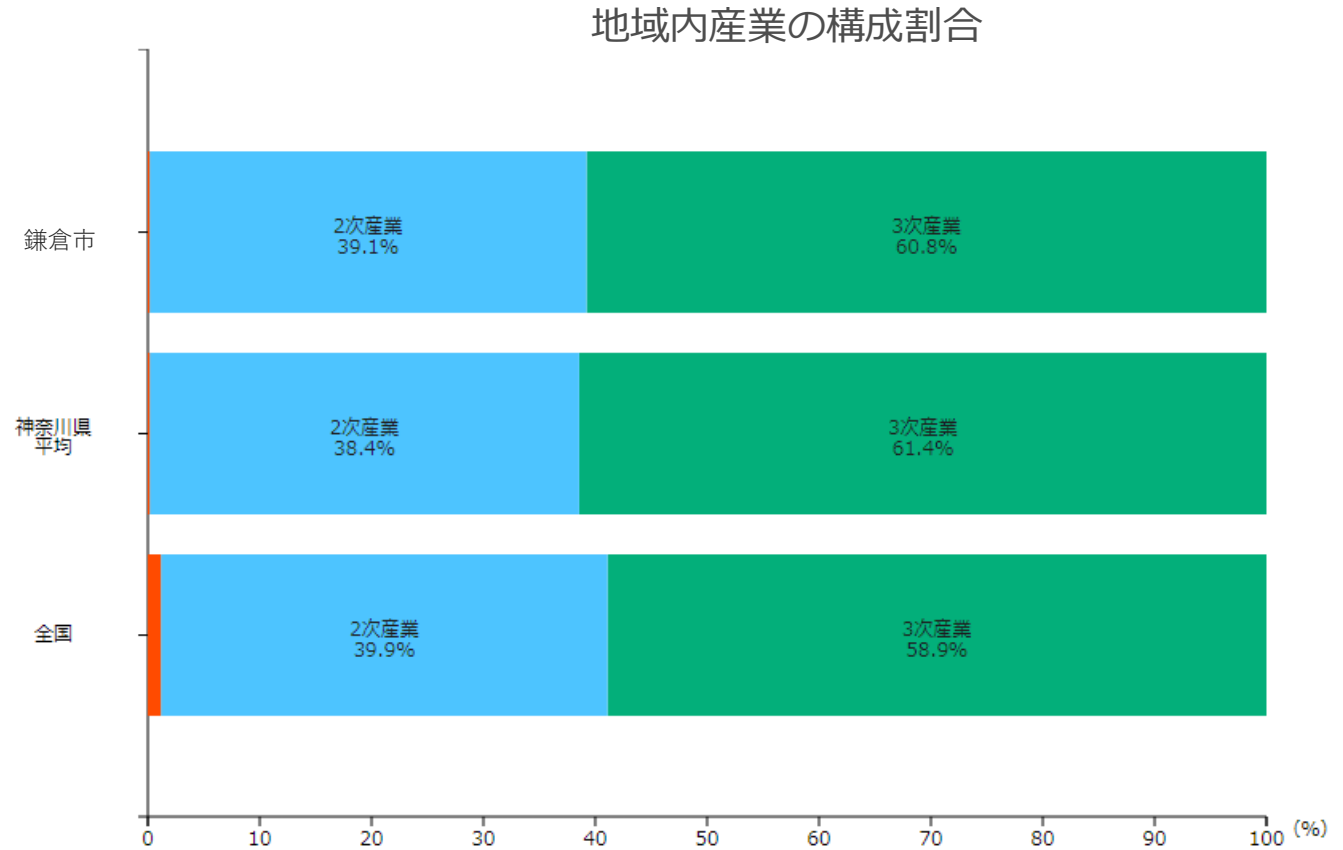
茅ヶ崎市は3.7%減となっている。



2.産業構造

地域内産業の構成割合

鎌倉市の産業の構成割合を全国および神奈川県と比較したグラフである。鎌倉市は神奈川県平均とほぼ同値で、全国平均より第2次産業の割合が1%ほど低く、第3次産業の割合は2%ほど高い。



3.小売業・卸売業

年間商品販売額の推移

小売業・卸売業の年間商品販売額の推移を示したグラフである。

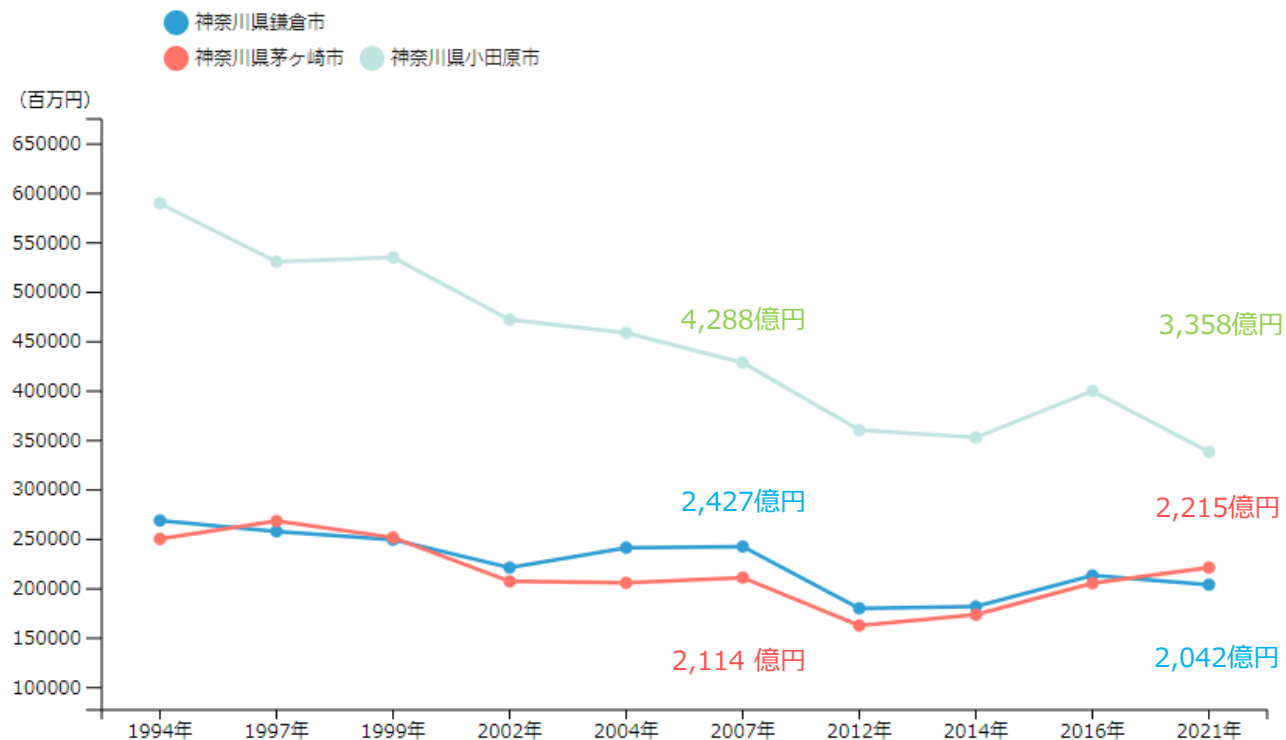
鎌倉市の販売額は2,042億円。

14年前の2007年と比較すると

15.8%減である。

他地域をみると、小田原市は21.0%減、

茅ヶ崎市は4.7%増となっている。

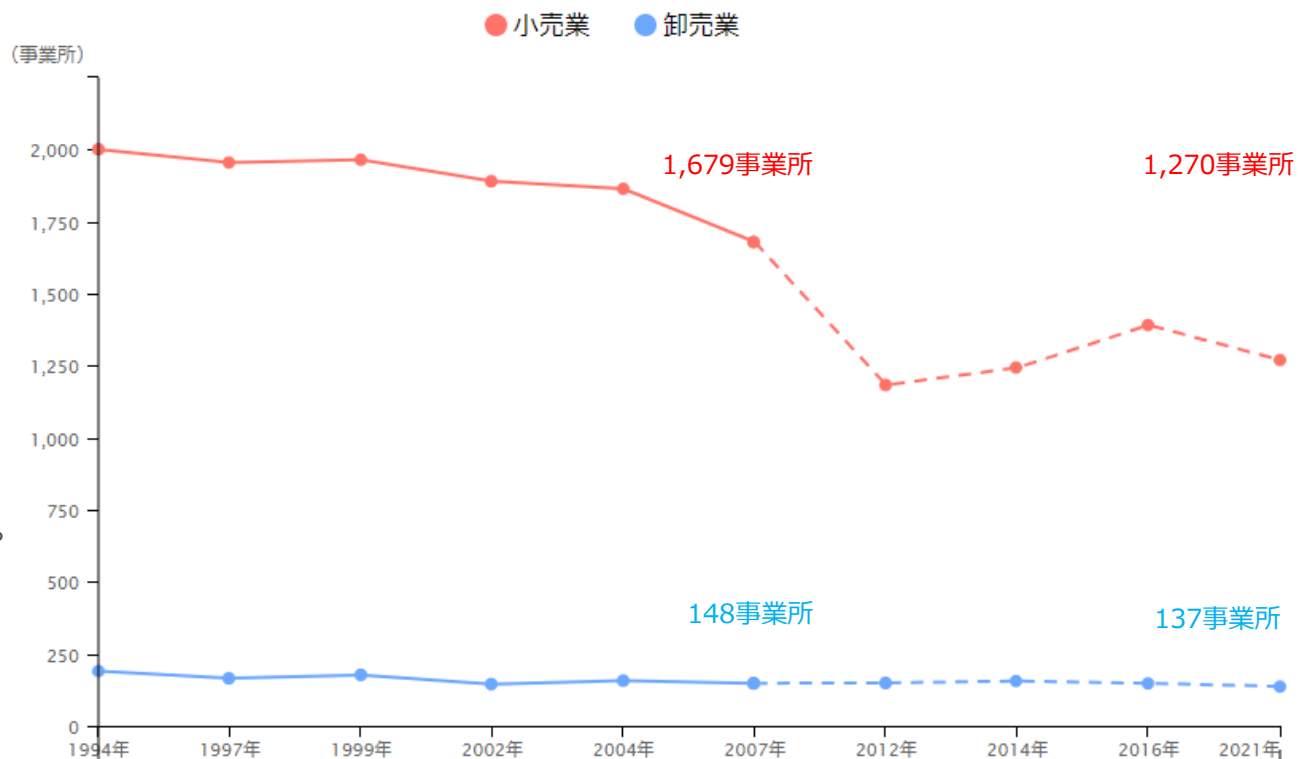


3.小売業・卸売業

事業所数の推移

小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフである。

2021年の事業所数は、
小売業1,270事業所、卸売業137事業所。
14年前の2007年と比較すると小売業は
24.3%減、卸売業は7.4%減となっている。



4. 製造業

製造品出荷額等の推移

製造業の製造品出荷額等の推移を示したグラフである。

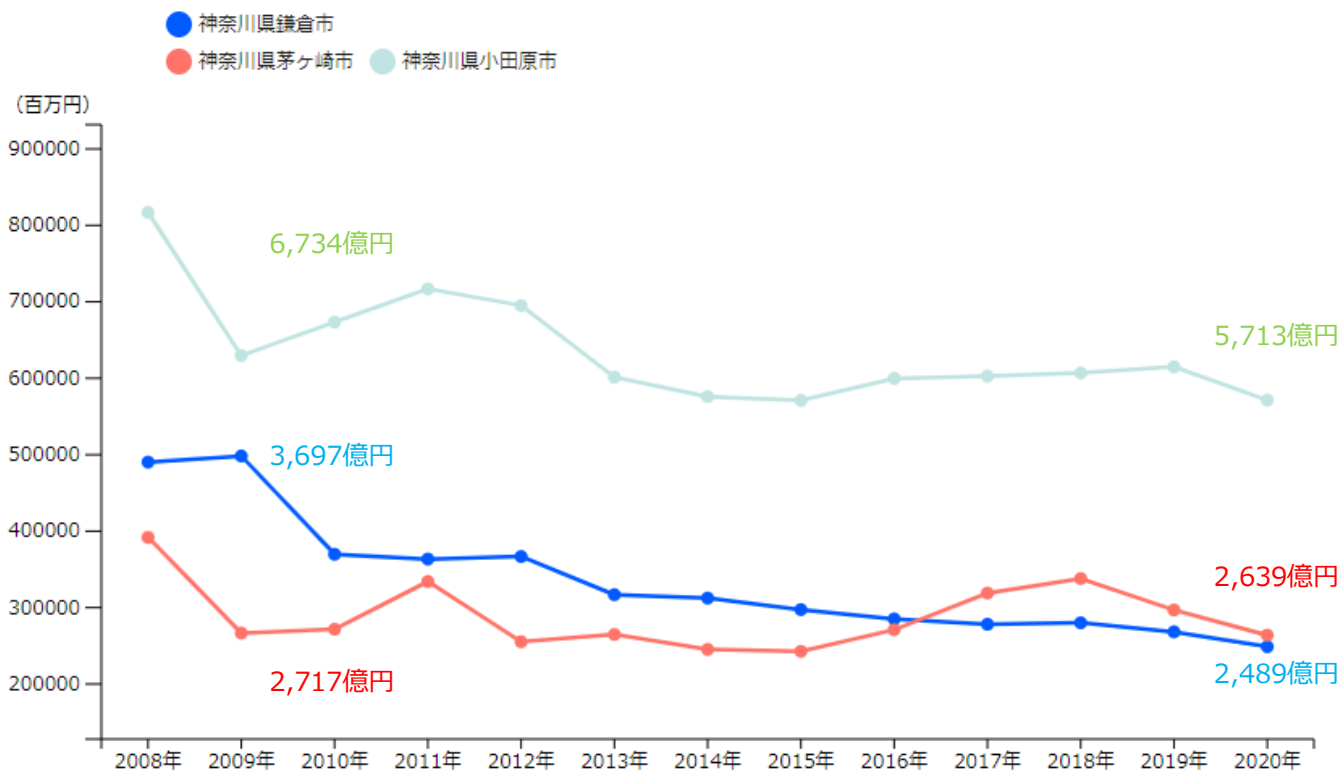
鎌倉市の出荷額等は2,489 億円。

10年前の2010 年と比較すると

32.6%減である。

他地域をみると、小田原市は15.1%減、

茅ヶ崎市は2.8%減となっている。



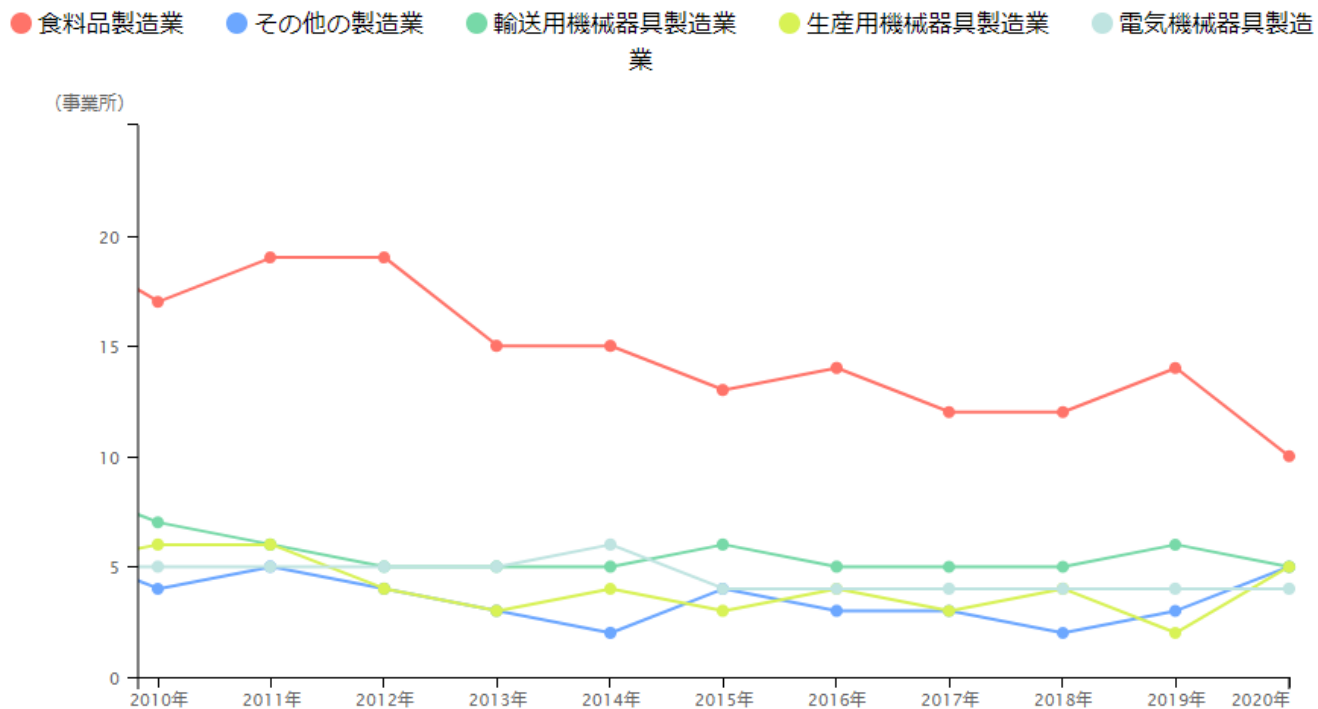
4. 製造業

事業所数の推移

主要製造業の事業所数の推移を示したグラフである。

鎌倉市には食料品製造業が多い。

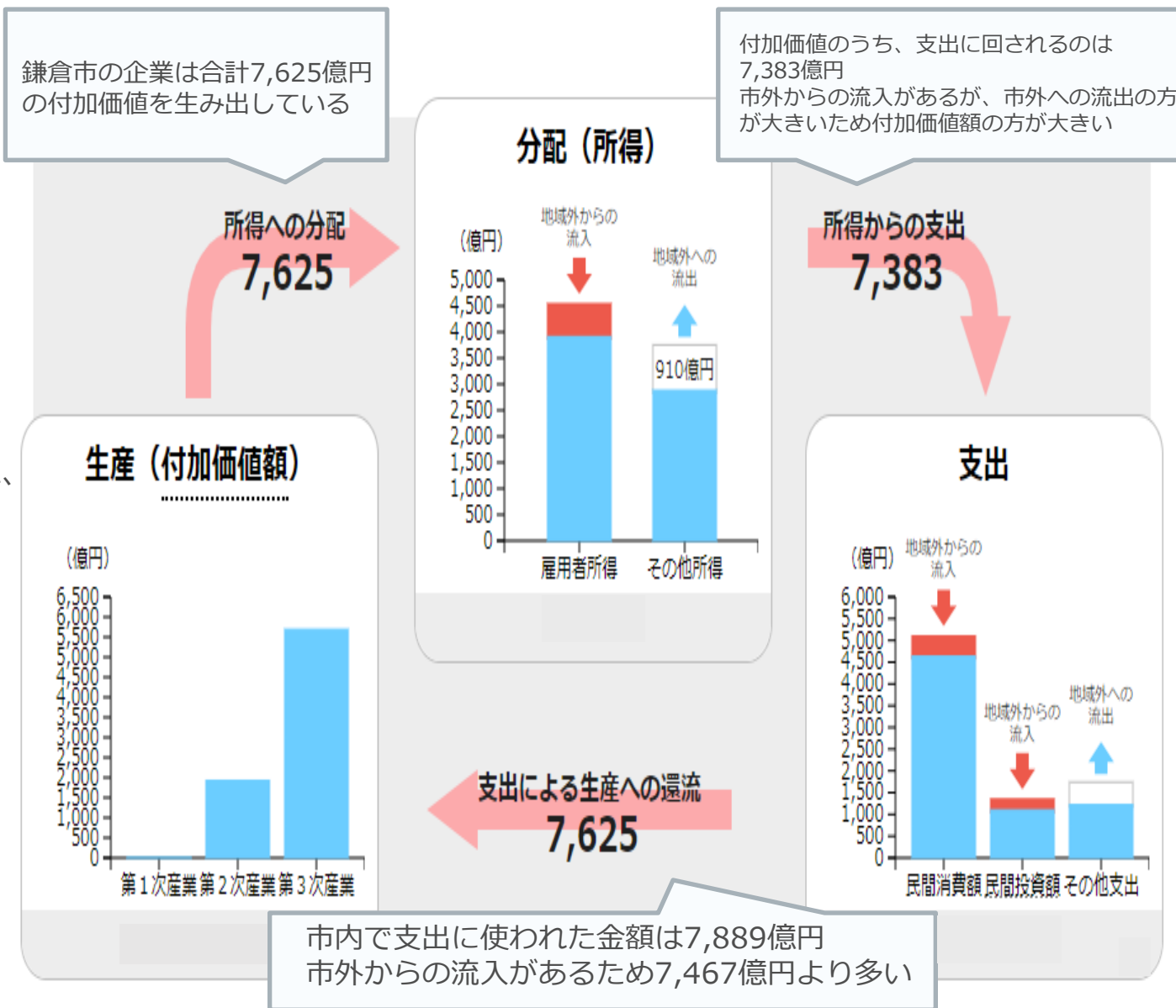
しかし10年前の2010年と比べると、食料品製造業の事業所は41.1%減少している。



5.地域経済循環

地域経済循環図 (2018年)

地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて、再び地域内企業に還流する。この流れを示したものが地域循環図である。



5.地域経済循環

総額:7,889億円

生産分析（2018年）

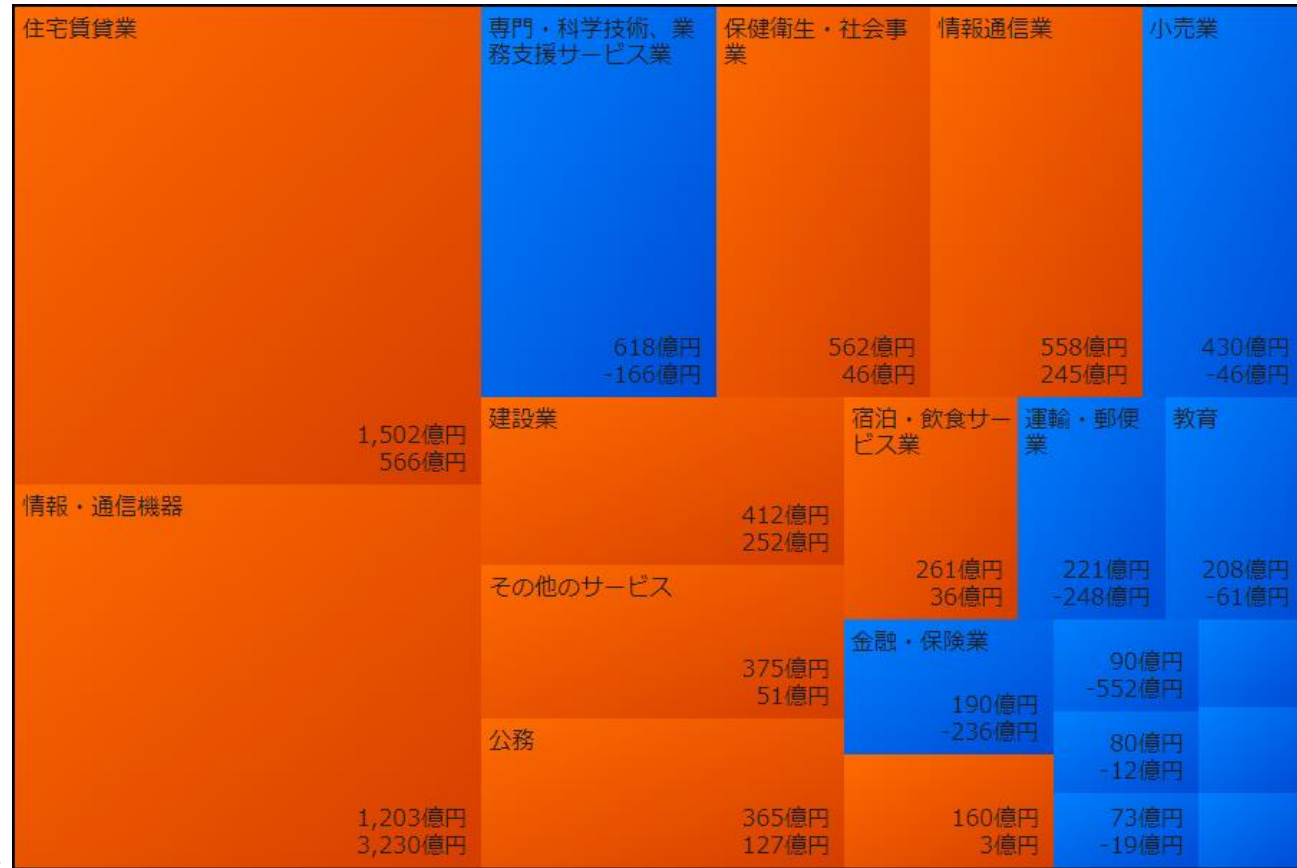
前ページの生産（付加価値）の内訳を面の大きさで示したグラフである。

付加価値が高いのは

「住宅賃貸業」、「情報通信業」、「専門・科学技術、業務支援サービス業」である。

なお、グラフの色は、赤色が「域外に移輸出して稼いでいる産業」、青色が「域外からの移輸入に依存している産業」を表している。

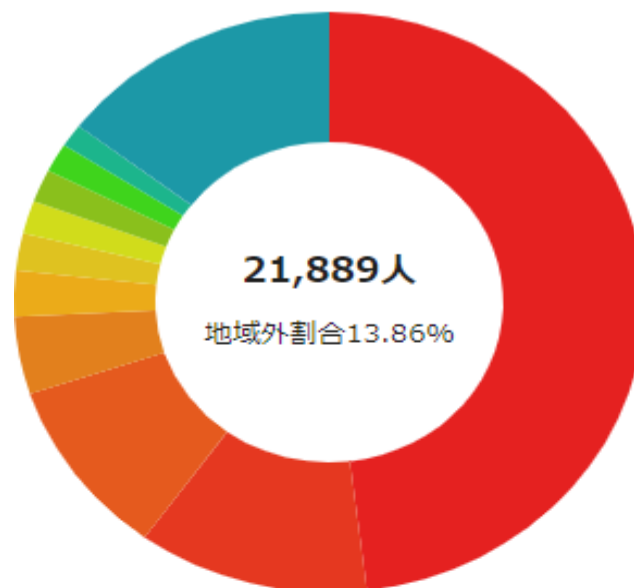
鎌倉市の上位にあがる業種の中では「専門・科学技術、業務支援サービス業」のみ地域外からの輸入に依存している産業であることがわかる。



6.まちづくり・観光

From-to 分析（滞在人口） （2023年 6月）

休日、14時にどの都道府県から観光客等が来ているかを示したグラフである。
東京都が48.1%と最も多く、
埼玉県11.8%、千葉県9.9%が続く。



滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

- 1位 東京都 10,529人 (48.10%)
- 2位 埼玉県 2,600人 (11.88%)
- 3位 千葉県 2,172人 (9.92%)
- 4位 静岡県 940人 (4.29%)
- 5位 茨城県 560人 (2.56%)
- 6位 愛知県 452人 (2.06%)
- 7位 大阪府 402人 (1.84%)
- 8位 群馬県 400人 (1.83%)
- 9位 栃木県 352人 (1.61%)
- 10位 北海道 284人 (1.30%)
- その他 3,198人 (14.61%)

6.まちづくり・観光

目的地検索ランキング (2023年3月・休日)

自動車で経路検索された回数が多い場所を
ランキング形式で示したグラフである。

「高德院」「鶴岡八幡宮」「長谷寺」

「銭洗弁財天」と歴史的な寺社仏閣の検索

回数が多い。

